

加藤恒彦 教授 略歴・主要著作目録

学 歴

- 1947年12月7日 大阪府に生まれる
1967年3月 大阪府立四条畷高校卒業
1967年4月 神戸市立外国語大学英米学科入学
1970年3月 同上修了
1970年4月 大阪市立大学研究科英米文学専攻修士課程入学
1972年3月 同上修了
1979年9月 アメリカ合衆国 カリフォルニア大学バークレー校 在外研究（1980年3月まで）
1992年4月
-93年3月 同 ハーバード大学 在外研究
2000年6月
-8月 同 アメリカン大学 在外研究
2008年4月
-9月 イギリス リーズ大学 在外研究

職 歴

- 1973年4月 高知県立女子大学 講師
1976年4月 同助教授
1982年4月 立命館大学産業社会学部 助教授
1988年4月 立命館大学国際関係学部 助教授
1990年4月 同教授 現在に至る
1999年9月
-2000年5月 アメリカン大学客員教授

所属学会

1973年	新英米文学研究会 現在に至る
1975年	日本アメリカ文学会 現在に至る
1974年	黒人研究の会 現在に至る
1993年6月	
-1998年5月	黒人研究の会事務局長
2005年	多民族研究学会 (MESA) 理事 現在に至る
2008年6月	黒人研究の会 副代表 (2010年5月まで)
2010年6月	黒人研究の会 代表兼事務局長 現在に至る

業績一覧

【著書 (単著)】

1. 『アメリカ黒人女性作家の世界—小説に見るもう一つの現代アメリカ』, 創元社, 1986年11月
2. 『アメリカ黒人女性作家論—アリス・ウォーカー, トニ・モリソン, グローリア・ネイラー』, 御茶の水書房, 1991年12月
3. 『トニ・モリスンの世界—語られざる, 語り得ぬものを求めて』, 世界思想社, 1997年12月
4. 『キャロル・フィリップスの世界—ブラック・ブリティッシュ文学の現在』, 世界思想社, 2008年3月

【著書 (共著)】

1. 『Thank you, M'am—ラングストン・ヒューズ作品集』, 三雄社, 1983年1月
2. 「ジェームズ・ボールドウィン 『ビール・ストリートに口あらば』, 『英米文学—名作への散歩道』, 三友社, 1985年5月
3. 「トニ・モリスンの意味」『箱舟, 21世紀に向けて—黒人文化とわれわれ』, 黒人研究の会編, 門土社, 1987年6月
4. 「フレドリック・ジェームスン 『政治的無意識』 (1981)」, 「ジャック・デリダ 『グラマトロジーについて』」, 『現代文学理論を学ぶ人のために』 川上勉編 世界思想社, 1994年10月

5. 「序論—世界の黒人文学」, 「アメリカ黒人文学論」『世界の黒人文学—アフリカ・カリブ・アメリカ』加藤・北島・山本 共編 鷺書房弓プレス, 2000年4月
6. 「米国での奴隷制廃止運動」, 『ラテンアメリカからの問いかけ』西川長夫・原 毅彦編 人文書院, 2000年11月
7. 「キャリル・フィリップスの「内奥の地」論—エリート黒人の悲劇—」, 黒人研究会編『黒人研究の世界』, 青磁書房, 2004年6月
8. 「『最終航海』—植民地主義の負の遺産」, 『カリブの風—英語文学とその周辺』, 風呂本惇子 編著 鷺書房弓プレス, 2004年10月
9. 「モニカ・アリの『ブリック・レーン』—女性・伝統・移民・変容」, 『英語文学とフォークロア—歌, 祭り, 語り』, 風呂本惇子, 松本昇 編 南雲堂フェニックス, 2008年12月
10. "The Dilemma of a Black Entertainer: A Contextualized Reading of Caryl Phillips' *Dancing in the Dark*", *Caryl Phillips: Writing in the Key of Life*, ed., Benedicte Ledent & Daria Tunica, Rodopi B.V., Amsterdam-New York, 2012.

【学術論文】

1. 「ドライサーの新聞記者時代と彼の思想形成」, 『高知女子大学紀要 人文・社会科学編』第22巻, 1974年3月
2. 「“シスター・キャリー”における人間と社会」, 『高知女子大学紀要 人文・社会科学編』第23巻, 1975年3月
3. 「“アメリカの息子”におけるビガーの意味」, 『Queries』No.12, 大阪市立大学大学院英文学研究会, 1975年4月
4. 「“ANOTHER COUNTRY”論—自己の追求という観点から」, 『高知女子大学紀要 人文・社会科学編』第26巻, 1978年3月
5. 「文学研究の方法論について（Ⅰ）—マルクス主義の立場から」, 『新英米文学研究会会誌』9号, 新英米文学研究会事務局, 1978年12月
6. 「『砂糖きび』の世界の探求（Ⅰ）—「ボックス・シート」と「キャブニス」を中心に」, 『季刊・新英米文学研究』12巻3号, 新英米文学研究会事務局, 1981年9月
7. 「『砂糖きび』の世界の探求（Ⅱ）—「ファーン」を中心に」, 『季刊・新英米文学研究』12巻4号, 新英米文学研究会事務局, 1981年12月
8. 「リチャード・ライトの南部体験と人格形成—「ブラック・ボーイ」論」, 『高知女子大学紀要 人文・社会科学編』第30巻, 1982年3月
9. 「リチャード・ライトと共産主義—ライトの転向問題を中心に」, 『外国文学研究』56号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1982年12月

10. 「“Meridian”論—変革者メリディアンを中心に」, 『外国文学研究』58号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1983年5月
11. 「The Outsider論—近代的個我とスターリン主義との相克のゆくえ」, 『外国文学研究』59号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1983年10月
12. 「The Color Purple論—男性優位主義と黒人の過去」, 『立命館大学人文科学研究紀要』No.37, 立命館大学人文科学研究所, 1984年3月
13. 「Sula論—Toni Morrisonの初期作品へのひとつのアプローチ」, 『外国文学研究』63号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1984年10月
14. 「現代黒人作家のなかでの Toni Morrison の意味」, 『黒人研究』創立30周年記念号, 黒人研究の会, 1984年12月
15. 「Song of Solomon論—黒人中産階級の自己疎外とその克服の道を求めて」, 『外国文学研究』64号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1985年1月
16. 「現代アメリカ黒人女性作家の動向と意味—Paule Marshallの Praisesong for the Widowを中心に」, 『立命館産業社会論集』20巻4号, 立命館大学産業社会学会, 1985年3月
17. 「「アメリカの夢」とその挫折—「怒りの葡萄」と「アメリカの悲劇」を比較する」, 『外国文学研究』67号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1985年8月
18. 「「アメリカ黒人女性作家」の過去と伝統—小説に見る黒人女性作家達の歴史」, 『外国文学研究』69号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1985年12月
19. 「Paule Marshall論（Ⅰ）Brown Girl, Brownstones論」, 『外国文学研究』70号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1986年4月
20. 「Paule Marshall論（Ⅱ）「選ばれた土地, 永久の人々」論を中心に」, 『外国文学研究』71号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1986年6月
21. 「構造主義言語学と反映論—研究ノート」, 『季刊・新英米文学研究』17巻4号, 新英米文学研究会事務局, 1986年11月
22. 「『グレンジ・コーブランドの第三の人生』論」, 『季刊・新英米文学研究』18巻1号, 新英米文学研究会事務局, 1987年5月
23. 「アリス・ウォーカー—自己尊厳の意識の獲得」, 『文化評論』315号, 新日本出版社, 1987年6月
24. 「黒人女性作家時代の口火」, 『民主文学』264号（通巻314号）, 日本民主主義文学会, 1987年11月
25. 「「ブルユースター・プレイスの女たち」論—グローリア・ネイラーの処女作に見るスラムに生きる黒人女性群」, 『外国文学研究』78号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1987年11月

26. 「[リンデン・ヒルズ] 論 (1) —黒人のブルジョワ化と精神的危機の促進—」, 『立命館国際研究』1 巻1 号, 立命館国際関係学会, 1988 年 5 月
27. 「[リンデン・ヒルズ] 論 (2) —黒人のブルジョワ化と精神的危機の促進—」, 『立命館国際研究』1 巻2 号, 立命館国際関係学会, 1989 年 1 月
28. 「[攻撃的寓話] を読む—「政治的無意識」から何を学ぶのか」, 『季刊・新英米文学研究』19 巻2 号, 新英米文学研究会事務局, 1988 年 8 月
29. 「[ター・ベイビー] 論—アメリカ黒人のジレンマ」, 『外国文学研究』83 号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1988 年 11 月
30. 「F. ジェームソンの「政治的無意識」批判—歴史へのペシミズムの行方」, 『外国文学研究』87 号, 立命館大学外国語科連絡協議会, 1989 年 3 月
31. 「ケネス・バークと 30 年代マルクス主義批評—「アメリカ作家会議」での論争にたいするレントリッキアの評価ともかかわって—」, 『立命館国際研究』2 巻1 号, 立命館国際関係学会, 1989 年 5 月
32. 「[ママ・デイ] 論—伝統と新しい黒人男女の関係を巡って」, 『立命館国際研究』2 巻2 号, 立命館国際関係学会, 1989 年 10 月
33. 「[テンプル・オブ・マイ・ファミリア] への序論—アリス・ウォーカーの最新のエッセイを中心に」, 『立命館言語文化研究』1 巻2 号, 立命館国際言語文化研究所, 1990 年 3 月
34. 「『テンプル・オブ・マイ・ファミリア論』—アリス・ウォーカーのフェミニズム思想を中心に—」, 『立命館国際研究』3 巻1 号, 立命館国際関係学会, 1990 年 5 月
35. 「80 年代アメリカ女性作家の小説世界」, 『民主文学』298 号 (通巻 348 号), 日本民主主義文学会, 1990 年 9 月
36. 「現代アメリカ小説とレイモンド・カーバー—日常性の中の非日常性を求めて」, 『立命館言語文化研究』2 巻4 号, 立命館大学国際言語文化研究所, 1991 年 2 月
37. 「アイ・クエイ・アーマの『美しきもの未だ生まれず』研究」, 『グリオ』, 平凡社, 1991 年 4 月
38. 「アイ・クエイ・アーマの『フラグメンツ』論: 異文化の遭遇と葛藤」, 『立命館言語文化研究』3 巻1 号, 立命館国際言語文化研究所, 1991 年 7 月
39. 「30 年代左翼批評とケネス・バーク—「歴史への心構え」から「文学形式の哲学」へ—」, 『立命館大学人文科学研究所紀要』No.53, 立命館大学人文科学研究所, 1991 年 11 月
40. 「村上春樹の小説における青年像—『風の歌を聴け』から『ノルウェーの森』へ」, 『立命館教育科学研究』No.2, 立命館大学教育科学研究所, 1992 年 3 月
41. 「トニ・モリスンの『ピラヴド』論—奴隷制批判の視点とその現代的意義」, 『立命館国際研究』7 巻1 号, 立命館大学国際関係学会, 1994 年 5 月

42. 「Henry Louis Gates, Jr. の黒人文学批評理論について—The Signifying Monkey を中心に」, 『立命館国際研究』7巻2号, 立命館大学国際関係学会, 1994年10月
43. 「トニ・モリスンの『青い眼が欲しい』論—ピコーラの悲劇とファンキネスの喪失」, 『立命館国際研究』7巻3号, 立命館大学国際関係学会, 1994年12月
44. 「トニ・モリスンの『ジャズ』論」, 『立命館国際研究』8巻1号, 立命館大学国際関係学会, 1995年5月
45. 「Black Studies Rap and the Academy by Houston A. Baker Jr. The University of Chicago Press」, 『黒人研究』No.65, 1995年12月
46. 「アメリカ文学と黒人存在—Toni Morrison の Playing in the Dark を読む」, 『立命館国際研究』8巻3号, 立命館国際関係学会, 1995年12月
47. 「トニ・モリスン研究を読む—『ピラピド』を巡る論点を中心に」, 『立命館国際研究』9巻1号, 立命館大学国際関係学会, 1996年5月
48. 「アフーマティブ・アクションの今—大統領発言と「アフーマティブ・アクション・レビュー」について」, 『立命館国際研究』9巻2号, 立命館大学国際関係学会, 1996年10月
49. 「トニ・モリスンの文学におけるファンキネスの意味—『青い眼が欲しい』を中心に」, 『世界文学』No.84, 世界文学会, 1996年12月
50. 「『トニ・モリスンとの対話』を読む—モリスン文学の源泉と思想」, 『立命館産業社会論集』33巻1号, 立命館大学産業社会学会, 1997年6月
51. 「W.E.B Du Bois の遺産と黒人知識人の役割—シンポジウム—デュボイス, ガーベラ, パドモアから今日まで」, 『黒人研究』No.69, 1992年12月
52. 「奴隷ナット・ターナーの反乱」, 『週刊朝日百科 世界の文学』34号, 朝日新聞社, 2000年3月12日
53. 「グローバリゼーションと黒人—キャリル・フィリップスの "Crossing the River" と CAMBRIDGE」, 『黒人研究』黒人研究会, 2002年12月
54. "Caryl Phillips as a Black British Writer: the Experience of Caribbean Immigrants After World War II ", *Ritsumeikan Annual Review of International Studies* Vol.1, The International Studies Association of Ritsumeikan University, 2002
55. 「『河をわたりて』論—ブラック・ダイアスポラと語られざる黒人体験」, 『立命館国際研究』16巻1号, 立命館大学国際関係学会, 2003年6月
56. "Recent Diasporic Novels in the UK: A Japanese Perspective", *Ritsumeikan Annual Review of International Studies* Vol.2, The International Studies Association of Ritsumeikan University, 2003

57. 「イギリスのディアスポラ文学近況—日本からのひとつの視点をふまえて」 黒人研究 No. 73 2003 年 12 月
58. 「ユダヤ人ディアスポラと仮想の記憶—Caryl Phillips の「より高い土地を求めて」論」, 『立命館国際研究』 17 卷 1 号, 立命館大学国際関係学会, 2004 年 6 月
59. 「キャリル・フィリップスの『血の性質』論—ホロコースト・サバイバー」, 『立命館国際研究』 18 卷 1 号, 立命館大学国際関係学会, 2005 年 6 月
60. 「水に沈められた幼心—イシグロの『遠い丘の光』を読む」, 『黒人研究』 No.77, 黒人研究会, 2008 年 3 月
61. 「STRENGTH TO LOVE を読む—公民権運動とキング牧師のキリスト教思想」, 『立命館国際研究』 22 卷 1 号, 立命館大学国際関係学会, 2009 年 6 月
62. 「私と黒人研究」『黒人研究』 No.80, 2011 年 3 月
63. “The Purpose and the Historical Context of the Symposium” 黒人研究会第 57 回全国大会での「グローバリゼーションのなかでの黒人研究シンポジウムでの冒頭発言の要旨」を掲載。『黒人研究』 No.81, 2012 年 3 月
64. 「『聖なるゲーム』と宗教的コミュニズム」, 『立命館国際研究』 25 卷 1 号, 立命館大学国際関係学会, 2012 年 6 月

【書評】

1. フランク・レントリッキア 『批評と社会変革』, 『季刊・新英米文学研究』 15 卷 3 号, 新英米文学研究会事務局, 1984 年 9 月
2. 富原芳彰 編 『文学の受容—現代批評の戦略』 研究社出版, 『季刊・新英米文学研究』 16 卷 3 号, 新英米文学研究会事務局, 1985 年 11 月
3. 村山淳彦 著 『セオドア・ドライサー論—アメリカと悲劇』 南雲堂, 読売新聞, 1987 年 12 月
4. 河地和子 編著 『わたしたちのアリス・ウォーカー』 御茶の水書房, 『文化評論』 新日本出版社, 1990 年 6 月
5. 荻野美穂 ほか著 『制度としての〈女〉—性・産・家族の社会的比較』 平凡社, 立命館大学国際言語文化研究所所報 3 号, 1990 年 9 月
6. Ishmael Reed “Japanese By Spring” Penguin Books, *MELUS* Vol.18 No.4, University of Massachusetts at Amherst, 1993 年 11 月
7. 大社淑子 著 『トニ・モリスン創造と解放の文学』 平凡社, 『赤旗』 1996 年 12 月 2 日
8. レジナルド・カーニー 著, 山本伸 訳 『20 世紀の日本人—アメリカ黒人の日本人観 1900-1945』 五月書房, 『黒人研究』 No.63, 黒人研究会, 1996 年

9. リチャード・ライト 著, 古川博巳, 絹笠清二 訳『ひでえぜ今日は!』彩流社, 『週刊読書人』, 2001年1月
10. 荒このみ 著『アフリカン・アメリカン文学論—「ニグロのイデオロム」と想像力』東京大学出版会, 『週刊読書人』2004年8月27日号
11. 行方均 著『記憶の語りと語りの記憶—アーネスト・J. ゲインズ, デイヴィッド, ブラッドリー, リチャード・ライト』南雲堂フェニックス, 『黒人研究』No.76, 黒人研究会, 2007年3月
12. マーティン・パナール 著, 片岡幸彦 監訳『ブラック・アテナ—古代ギリシャ文明のアフロ・アジア的ルーツ :1. 古代ギリシャの捏造 1785-1985』新評論, 『黒人研究』No.77, 黒人研究会, 2008年3月

【その他の文筆活動】

1. 「最近のアメリカ映画に観るアメリカ—民主主義と人権思想の復活—」, 『シネ・フロント』1979年7月号 (No.38), シネ・フロント社
2. 「米政府が恐れた黒人の「日本びいき」—マルコム X の新たな実像も」, 朝日新聞 1993年7月15日
3. 「米国の黒人女性作家トニー・モリスンさんノーベル文学賞受賞に思う」, 京都新聞 1993年10月
4. 「カリブの魅力・ウォルコット」, 読売新聞 1994年10月5日
5. 「時代に問う—文学 & G0027; 活力のある黒人女性 (米国の文化的多元主義の流れ)」, 京都新聞 1994年10月20日付
6. 「解放運動とともに 400回」, 京都新聞, 1996年10月
7. 「フェミニズム理論辞典」, 明石書店, 1999年8月 (項目執筆)
8. 「アフリカ系アメリカ人ハンディ事典」, 南雲堂フェニックス, 2006年9月 (項目執筆)
9. 「代表からのメッセージ—代表就任にあたりましてのご挨拶」, 『黒人研究』No.80, 2011年3月

【学会発表など】

1. シンポジウム「現代文化—80年代—の特徴 (村上春樹の文学について発表)」, 1990年9月 (『立命館言語文化研究』2巻1号に掲載)
2. 「アメリカにおける奴隷制廃止運動—共通性と異質性」, 立命館大学国際言語文化研究所主催連続講演会「ラテンアメリカにおける奴隷制」, 1998年
3. 「90年代のアメリカ黒人文学の展開」, 黒人研究会例会, 2000年9月

4. 「グローバリゼーションと黒人—キャリル・フィリップスの“Crossing the River”とCAMBRID」, 黒人研究の会全国大会シンポジウム, 2002年6月
5. 「キャリル・フィリップスの作家形成」, カリブ研究会例会, 2002年9月
6. 「キャリル・フィリップスの“CROSSING THE RIVER”について」, 黒人研究の会例会, 2002年10月
7. “Recent Diasporic Novels in the UK: A Japanese Perspective” イタリアのベラージオで2003年8月29日～9月1日に開催された“The Caribbean in New York & Paris”と題するカリブ研究者の国際学会での発表
8. “The Dilemma of a Black Entertainer: A Contextualized Reading of Caryl Phillips’ *Dancing in the Dark*” 2006年末, ベルギーのリアージュ大学で開催されたCaryl Philipps 作家活動25周年を記念した国際学会での発表
10. “The Purpose and the Historical Context of the Symposium” 黒人研究の会第57回全国大会での「グローバリゼーションのなかでの黒人研究」シンポジウムでの冒頭発言
11. “The Significance of More Than Just Race”, 黒人研究の会, 2011年10月例会, 2011年10月15日
12. 「Vikram Chandra の *Sacred Games* について」, 黒人研究の会, 2012年4月例会, 2012年4月28日
13. 「Bharati Mukherjee の *JASMINE* (1989) を読む」 黒人研究の会, 2012年7月例会, 2012年7月21日

